－　　－　　－

科目区分	キャリア系列／キャリア・ビジネス教育系列						
科目名	インターンシップ						
担当教員	単位認定者：青谷　実知代						
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	3	単位数	1.0

授業のテーマ	将来のキャリアに関連した就業体験を行い、社会で働くことの意義を考える
授業の概要	企業実習に行く前の事前教育では、まずインターンシップとは何かを理解する。次に仕事への取り組み、ビジネス・マナーなど、心の準備と目的を的確にさせ、実習の効果を高めるようにする。企業での実習体験を通して、社会人として必要な資質を学び、将来自分が何をやりたいのか、それをどう実現するのかを学生が主体的に考え、取り組めるようにサポートする。また自分の将来に必要な仕事へ積極的にチャレンジできるようサポートする。
到達目標	①就業体験を通じて、将来の自立と学生時代の過ごし方を含めた自分のキャリアを主体的に考え実行できるようになる。 ②社会で働く意義を自ら捉え、自己PRや志望動機につなげることができる
授業計画	【事前学習　7月11日（土）　福田洋子】 1.ビジネスインターンシップについてⅠ：日本の状況 2.ビジネスインターンシップについてⅡ：海外の状況 3.業種についてⅠ 4.職種についてⅡ 5.会社の仕組みⅠ 6.会社の仕組みⅡ 7.ビジネスマナーⅠ 8.ビジネスマナーⅡ 9.電話のマナー 10.受付のマナー 11.訪問のマナー 12.実習先企業について調べてみる 13.実習先のマッチングⅠ 14.実習先のマッチングⅡ 15.ビジネス文書Ⅰ（受入れのお願い） 16.ビジネス文書Ⅱ 17.挨拶 【夏休み中実習】 18.実習Ⅰ 19.実習Ⅱ 20.実習Ⅲ 21.実習Ⅳ 22.実習Ⅴ 23.実習Ⅵ 【事後学習　9月25日（金）　青谷実知代】 24.お礼状の書き方 25.業界・業種の特徴 26.実習報告 27.プレゼンテーションⅠ 28.プレゼンテーションⅡ 29.プレゼンテーションⅢ 30.総括（事後レポート）
授業外における学習（準備学習の内容）	ウェブ・新聞などで、常に社会の動きを見る。 一般常識、マナーなどの知識を深める。
授業方法	企業・団体の職場で就業体験実習を行う。
評価基準と評価方法	事前レポート（20%）、事後レポート（20%）、実習先の評価（60%）で総合的に判断する。
教科書	なし（必要に応じて資料を配布する）

参考書	随時紹介する。

－　　－　　－

科目区分	キャリア系列／キャリア・ビジネス教育系列						
科目名	キャリアデザインI						
担当教員	青谷　実知代・三木　吉光子						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	木曜4	配当学年	1	単位数	2.0

授業のテーマ	「キャリア」とはどういう人生を送りたいか常に考え続けることです。キャリアのスタートラインに立つ大学生のうちに、その基本となる考え方や行動の仕方を学びます。
授業の概要	自分や社会を知りながら、「生き方」「働き方」「大学生活の過ごし方」を自分で考え、行動するきっかけをつくる授業です。 これから始まる4年間の大学生活をどう過ごすかは、将来に大きな影響を与えます。キャリアデザインＩでは、ワークやグループディスカッション等を通して「自分を知る」「社会を知る」「学問とのつながりを考える」ことを中心に、自分（皆さんひとりひとり）にとっていい人生を送るために「生き方」「働き方」「大学生活の過ごし方」を自分で考え、行動するきっかけをつくります。 この講座を受講することにより、 　①社会に出る（就職）ための準備や練習を今のうちから始めることができます。 　②あなた自身の大学生活をより充実させることができます。
到達目標	以下３点を目標として設定しています。 ①「自分の良さを知る」：自分のいいところを一つでも自信をもって語れるようになる ②「コミュニケーション力を磨く」：自分の意見を臆することなく話し、相手の主張をしっかり受け止められるようになる ③「目標の立て方を知る」：大学生活の中での目標とその実行計画を立てることができる
授業計画	第 1回　キャリアデザインって何だろう？　～大学生活で何を身につけるか？～ 第 2回　コミュニケーションは社会のベース 第 3回　自分について考えよう　～大学生活で強みを伸ばす～ 第 4回　あなたの強みは？　①自分の強みを考えてみよう 第 5回　あなたの強みは？　②強みから職業を考えてみよう 第 6回　社会で活きる 第 7回　社会が求める人材って？ 第 8回　職種・資格について考えよう 第 9回　社会のトレンドを読む！ 第10回　社会と学問の関係は？ 第11回　「学び」の意味を考えよう！ 第12回　私のキャリアデザインマップ作成① 第13回　私のキャリアデザインマップ作成②～発表 第14回　目標に向かってチャレンジしよう　　※レポート類提出 第15回　まとめ　～これからの大学生活をどう過ごすか～　※テスト実施
授業外における学習（準備学習の内容）	以下の２点を行い、レポート等の課題として予定しています。 ・内定者の先輩の話を聞きに行く　※設定時期等は授業内で連絡 ・仕事をしている人のインタビューをし、まとめる
授業方法	演習中心
評価基準と評価方法	平常点及びプレゼン点を50%、レポートやワークシート等の課題提出とテストの結果50%を基準とし、総合的に判断します。 ◎平常点及びプレゼン点について ①毎回書く，コミュニケーションシート。テーマは講師が指定します。 　コミュニケーションシートの提出が9回以下の場合は、平常点は0点になります。 　また、講義への参加態度（積極性、主体性、協調性など）も平常点に含みますので、参加態度により加点・減点をします。 ②私のキャリアデザインマップの発表。プレゼン内容を評価の対象とします。 ◎レポートやワークシート・テストについて ③講義で使用するワークシートのうち、講師が指定したものをコピーして提出。 ④講座終了時のレポート提出。 ⑤講義内で使用する「大学生基礎力レポートＩ」の学力部分に付随するテスト。テストの内容は「国語基礎」「数学基礎」での開講内容とリンクしています。 ＊具体的な課題内容については講座終盤に発表し、講義時に提出を求める予定です。

教科書	「MY　CAREER　NOTE　Ⅰ（ADVANCE）」 　ワーク等で使いますので、毎回必ず持参してください。
参考書	4月に全員が受検する「大学生基礎力レポートⅠ」の結果（自宅に郵送）を授業で使います。 「MY　CAREER　NOTE　Ⅰ（ADVANCE）」とともに保管して下さい。

－　　－　　－

科目区分	キャリア系列／キャリア・ビジネス教育系列						
科目名	キャリアデザインI						
担当教員	倉　真智子・大塩　佐公子						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	金曜4	配当学年	1	単位数	2.0

授業のテーマ	「キャリア」とはどういう人生を送りたいか常に考え続けることです。キャリアのスタートラインに立つ大学生のうちに、その基本となる考え方や行動の仕方を学びます。
授業の概要	自分や社会を知りながら、「生き方」「働き方」「大学生活の過ごし方」を自分で考え、行動するきっかけをつくる授業です。 これから始まる4年間の大学生活をどう過ごすかは、将来に大きな影響を与えます。キャリアデザインＩでは、ワークやグループディスカッション等を通して「自分を知る」「社会を知る」「学問とのつながりを考える」ことを中心に、自分（皆さんひとりひとり）にとっていい人生を送るために「生き方」「働き方」「大学生活の過ごし方」を自分で考え、行動するきっかけをつくります。 この講座を受講することにより、 　①社会に出る（就職）ための準備や練習を今のうちから始めることができます。 　②あなた自身の大学生活をより充実させることができます。
到達目標	以下３点を目標として設定しています。 ①「自分の良さを知る」：自分のいいところを一つでも自信をもって語れるようになる ②「コミュニケーション力を磨く」：自分の意見を臆することなく話し、相手の主張をしっかり受け止められるようになる ③「目標の立て方を知る」：大学生活の中での目標とその実行計画を立てることができる
授業計画	第 1回　キャリアデザインって何だろう？　～大学生活で何を身につけるか？～ 第 2回　コミュニケーションは社会のベース 第 3回　自分について考えよう　～大学生活で強みを伸ばす～ 第 4回　あなたの強みは？　①自分の強みを考えてみよう 第 5回　あなたの強みは？　②強みから職業を考えてみよう 第 6回　社会で活きる 第 7回　社会が求める人材って？ 第 8回　職種・資格について考えよう 第 9回　社会のトレンドを読む！ 第10回　社会と学問の関係は？ 第11回　「学び」の意味を考えよう！ 第12回　私のキャリアデザインマップ作成① 第13回　私のキャリアデザインマップ作成②～発表 第14回　目標に向かってチャレンジしよう　　※レポート類提出 第15回　まとめ　～これからの大学生活をどう過ごすか～　※テスト実施
授業外における学習（準備学習の内容）	以下の２点を行い、レポート等の課題として予定しています。 ・内定者の先輩の話を聞きに行く　※設定時期等は授業内で連絡 ・仕事をしている人のインタビューをし、まとめる
授業方法	演習中心
評価基準と評価方法	平常点及びプレゼン点を50%、レポートやワークシート等の課題提出とテストの結果50%を基準とし、総合的に判断します。 ◎平常点及びプレゼン点について ①毎回書く，コミュニケーションシート。テーマは講師が指定します。 　コミュニケーションシートの提出が9回以下の場合は、平常点は0点になります。 　また、講義への参加態度（積極性、主体性、協調性など）も平常点に含みますので、参加態度により加点・減点をします。 ②私のキャリアデザインマップの発表。プレゼン内容を評価の対象とします。 ◎レポートやワークシート・テストについて ③講義で使用するワークシートのうち、講師が指定したものをコピーして提出。 ④講座終了時のレポート提出。 ⑤講義内で使用する「大学生基礎力レポートＩ」の学力部分に付随するテスト。テストの内容は「国語基礎」「数学基礎」での開講内容とリンクしています。 ＊具体的な課題内容については講座終盤に発表し、講義時に提出を求める予定です。

教科書	「MY　CAREER　NOTE　Ⅰ（ADVANCE）」 　ワーク等で使いますので、毎回必ず持参してください。
参考書	4月に全員が受検する「大学生基礎力レポートⅠ」の結果（自宅に郵送）を授業で使います。 「MY　CAREER　NOTE　Ⅰ（ADVANCE）」とともに保管して下さい。

－　　－　　－

科目区分	キャリア系列／キャリア・ビジネス教育系列						
科目名	キャリアデザインI						
担当教員	黒崎　優美・池松　華奈子						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	1	単位数	2.0

授業のテーマ	「キャリア」とはどういう人生を送りたいか常に考え続けることです。キャリアのスタートラインに立つ大学生のうちに、その基本となる考え方や行動の仕方を学びます。
授業の概要	自分や社会を知りながら、「生き方」「働き方」「大学生活の過ごし方」を自分で考え、行動するきっかけをつくる授業です。 これから始まる4年間の大学生活をどう過ごすかは、将来に大きな影響を与えます。キャリアデザインＩでは、ワークやグループディスカッション等を通して「自分を知る」「社会を知る」「学問とのつながりを考える」ことを中心に、自分（皆さんひとりひとり）にとっていい人生を送るために「生き方」「働き方」「大学生活の過ごし方」を自分で考え、行動するきっかけをつくります。 この講座を受講することにより、 　①社会に出る（就職）ための準備や練習を今のうちから始めることができます。 　②あなた自身の大学生活をより充実させることができます。
到達目標	以下３点を目標として設定しています。 ①「自分の良さを知る」：自分のいいところを一つでも自信をもって語れるようになる ②「コミュニケーション力を磨く」：自分の意見を臆することなく話し、相手の主張をしっかり受け止められるようになる ③「目標の立て方を知る」：大学生活の中での目標とその実行計画を立てることができる
授業計画	第 1回　キャリアデザインって何だろう？　～大学生活で何を身につけるか？～ 第 2回　コミュニケーションは社会のベース 第 3回　自分について考えよう　～大学生活で強みを伸ばす～ 第 4回　あなたの強みは？　①自分の強みを考えてみよう 第 5回　あなたの強みは？　②強みから職業を考えてみよう 第 6回　社会で活きる 第 7回　社会が求める人材って？ 第 8回　職種・資格について考えよう 第 9回　社会のトレンドを読む！ 第10回　社会と学問の関係は？ 第11回　「学び」の意味を考えよう！ 第12回　私のキャリアデザインマップ作成① 第13回　私のキャリアデザインマップ作成②～発表 第14回　目標に向かってチャレンジしよう　　※レポート類提出 第15回　まとめ　～これからの大学生活をどう過ごすか～　※テスト実施
授業外における学習（準備学習の内容）	以下の２点を行い、レポート等の課題として予定しています。 ・内定者の先輩の話を聞きに行く　※設定時期等は授業内で連絡 ・仕事をしている人のインタビューをし、まとめる
授業方法	演習中心
評価基準と評価方法	平常点及びプレゼン点を50%、レポートやワークシート等の課題提出とテストの結果50%を基準とし、総合的に判断します。 ◎平常点及びプレゼン点について ①毎回書く，コミュニケーションシート。テーマは講師が指定します。 　コミュニケーションシートの提出が9回以下の場合は、平常点は0点になります。 　また、講義への参加態度（積極性、主体性、協調性など）も平常点に含みますので、参加態度により加点・減点をします。 ②私のキャリアデザインマップの発表。プレゼン内容を評価の対象とします。 ◎レポートやワークシート・テストについて ③講義で使用するワークシートのうち、講師が指定したものをコピーして提出。 ④講座終了時のレポート提出。 ⑤講義内で使用する「大学生基礎力レポートＩ」の学力部分に付随するテスト。テストの内容は「国語基礎」「数学基礎」での開講内容とリンクしています。 ＊具体的な課題内容については講座終盤に発表し、講義時に提出を求める予定です。

教科書	「MY　CAREER　NOTE　Ⅰ（ADVANCE）」 　ワーク等で使いますので、毎回必ず持参してください。
参考書	4月に全員が受検する「大学生基礎力レポートⅠ」の結果（自宅に郵送）を授業で使います。 「MY　CAREER　NOTE　Ⅰ（ADVANCE）」とともに保管して下さい。

－　　－　　－

科目区分	キャリア系列／キャリア・ビジネス教育系列						
科目名	キャリアデザインI						
担当教員	田附　敏尚・池松　華奈子						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	水曜1	配当学年	1	単位数	2.0

授業のテーマ	「キャリア」とはどういう人生を送りたいか常に考え続けることです。キャリアのスタートラインに立つ大学生のうちに、その基本となる考え方や行動の仕方を学びます。
授業の概要	自分や社会を知りながら、「生き方」「働き方」「大学生活の過ごし方」を自分で考え、行動するきっかけをつくる授業です。 これから始まる4年間の大学生活をどう過ごすかは、将来に大きな影響を与えます。キャリアデザインＩでは、ワークやグループディスカッション等を通して「自分を知る」「社会を知る」「学問とのつながりを考える」ことを中心に、自分（皆さんひとりひとり）にとっていい人生を送るために「生き方」「働き方」「大学生活の過ごし方」を自分で考え、行動するきっかけをつくります。 この講座を受講することにより、 　①社会に出る（就職）ための準備や練習を今のうちから始めることができます。 　②あなた自身の大学生活をより充実させることができます。
到達目標	以下３点を目標として設定しています。 ①「自分の良さを知る」：自分のいいところを一つでも自信をもって語れるようになる ②「コミュニケーション力を磨く」：自分の意見を臆することなく話し、相手の主張をしっかり受け止められるようになる ③「目標の立て方を知る」：大学生活の中での目標とその実行計画を立てることができる
授業計画	第 1回　キャリアデザインって何だろう？　～大学生活で何を身につけるか？～ 第 2回　コミュニケーションは社会のベース 第 3回　自分について考えよう　～大学生活で強みを伸ばす～ 第 4回　あなたの強みは？　①自分の強みを考えてみよう 第 5回　あなたの強みは？　②強みから職業を考えてみよう 第 6回　社会で活きる 第 7回　社会が求める人材って？ 第 8回　職種・資格について考えよう 第 9回　社会のトレンドを読む！ 第10回　社会と学問の関係は？ 第11回　「学び」の意味を考えよう！ 第12回　私のキャリアデザインマップ作成① 第13回　私のキャリアデザインマップ作成②～発表 第14回　目標に向かってチャレンジしよう　　※レポート類提出 第15回　まとめ　～これからの大学生活をどう過ごすか～　※テスト実施
授業外における学習（準備学習の内容）	以下の２点を行い、レポート等の課題として予定しています。 ・内定者の先輩の話を聞きに行く　※設定時期等は授業内で連絡 ・仕事をしている人のインタビューをし、まとめる
授業方法	演習中心
評価基準と評価方法	平常点及びプレゼン点を50%、レポートやワークシート等の課題提出とテストの結果50%を基準とし、総合的に判断します。 ◎平常点及びプレゼン点について ①毎回書く，コミュニケーションシート。テーマは講師が指定します。 　コミュニケーションシートの提出が9回以下の場合は、平常点は0点になります。 　また、講義への参加態度（積極性、主体性、協調性など）も平常点に含みますので、参加態度により加点・減点をします。 ②私のキャリアデザインマップの発表。プレゼン内容を評価の対象とします。 ◎レポートやワークシート・テストについて ③講義で使用するワークシートのうち、講師が指定したものをコピーして提出。 ④講座終了時のレポート提出。 ⑤講義内で使用する「大学生基礎力レポートＩ」の学力部分に付随するテスト。テストの内容は「国語基礎」「数学基礎」での開講内容とリンクしています。 ＊具体的な課題内容については講座終盤に発表し、講義時に提出を求める予定です。

教科書	「MY　CAREER　NOTE　Ⅰ（ADVANCE）」 　ワーク等で使いますので、毎回必ず持参してください。
参考書	4月に全員が受検する「大学生基礎力レポートⅠ」の結果（自宅に郵送）を授業で使います。 「MY　CAREER　NOTE　Ⅰ（ADVANCE）」とともに保管して下さい。

－　　－　　－

科目区分	キャリア系列／キャリア・ビジネス教育系列						
科目名	キャリアデザインI						
担当教員	西川　純司・宮津　聰子						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	月曜1	配当学年	1	単位数	2.0

授業のテーマ	「キャリア」とはどういう人生を送りたいか常に考え続けることです。キャリアのスタートラインに立つ大学生のうちに、その基本となる考え方や行動の仕方を学びます。
授業の概要	自分や社会を知りながら、「生き方」「働き方」「大学生活の過ごし方」を自分で考え、行動するきっかけをつくる授業です。 これから始まる4年間の大学生活をどう過ごすかは、将来に大きな影響を与えます。キャリアデザインＩでは、ワークやグループディスカッション等を通して「自分を知る」「社会を知る」「学問とのつながりを考える」ことを中心に、自分（皆さんひとりひとり）にとっていい人生を送るために「生き方」「働き方」「大学生活の過ごし方」を自分で考え、行動するきっかけをつくります。 この講座を受講することにより、 　①社会に出る（就職）ための準備や練習を今のうちから始めることができます。 　②あなた自身の大学生活をより充実させることができます。
到達目標	以下３点を目標として設定しています。 ①「自分の良さを知る」：自分のいいところを一つでも自信をもって語れるようになる ②「コミュニケーション力を磨く」：自分の意見を臆することなく話し、相手の主張をしっかり受け止められるようになる ③「目標の立て方を知る」：大学生活の中での目標とその実行計画を立てることができる
授業計画	第 1回　キャリアデザインって何だろう？　～大学生活で何を身につけるか？～ 第 2回　コミュニケーションは社会のベース 第 3回　自分について考えよう　～大学生活で強みを伸ばす～ 第 4回　あなたの強みは？　①自分の強みを考えてみよう 第 5回　あなたの強みは？　②強みから職業を考えてみよう 第 6回　社会で活きる 第 7回　社会が求める人材って？ 第 8回　職種・資格について考えよう 第 9回　社会のトレンドを読む！ 第10回　社会と学問の関係は？ 第11回　「学び」の意味を考えよう！ 第12回　私のキャリアデザインマップ作成① 第13回　私のキャリアデザインマップ作成②～発表 第14回　目標に向かってチャレンジしよう　　※レポート類提出 第15回　まとめ　～これからの大学生活をどう過ごすか～　※テスト実施
授業外における学習（準備学習の内容）	以下の２点を行い、レポート等の課題として予定しています。 ・内定者の先輩の話を聞きに行く　※設定時期等は授業内で連絡 ・仕事をしている人のインタビューをし、まとめる
授業方法	演習中心
評価基準と評価方法	平常点及びプレゼン点を50%、レポートやワークシート等の課題提出とテストの結果50%を基準とし、総合的に判断します。 ◎平常点及びプレゼン点について ①毎回書く，コミュニケーションシート。テーマは講師が指定します。 　コミュニケーションシートの提出が9回以下の場合は、平常点は0点になります。 　また、講義への参加態度（積極性、主体性、協調性など）も平常点に含みますので、参加態度により加点・減点をします。 ②私のキャリアデザインマップの発表。プレゼン内容を評価の対象とします。 ◎レポートやワークシート・テストについて ③講義で使用するワークシートのうち、講師が指定したものをコピーして提出。 ④講座終了時のレポート提出。 ⑤講義内で使用する「大学生基礎力レポートＩ」の学力部分に付随するテスト。テストの内容は「国語基礎」「数学基礎」での開講内容とリンクしています。 ＊具体的な課題内容については講座終盤に発表し、講義時に提出を求める予定です。

教科書	「MY　CAREER　NOTE　Ⅰ（ADVANCE）」 　ワーク等で使いますので、毎回必ず持参してください。
参考書	4月に全員が受検する「大学生基礎力レポートⅠ」の結果（自宅に郵送）を授業で使います。 「MY　CAREER　NOTE　Ⅰ（ADVANCE）」とともに保管して下さい。

－　　－　　－

科目区分	キャリア系列／キャリア・ビジネス教育系列						
科目名	キャリアデザインI						
担当教員	福田　洋子・田中　由子						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	金曜4	配当学年	1	単位数	2.0

授業のテーマ	「キャリア」とはどういう人生を送りたいか常に考え続けることです。キャリアのスタートラインに立つ大学生のうちに、その基本となる考え方や行動の仕方を学びます。
授業の概要	自分や社会を知りながら、「生き方」「働き方」「大学生活の過ごし方」を自分で考え、行動するきっかけをつくる授業です。 これから始まる4年間の大学生活をどう過ごすかは、将来に大きな影響を与えます。キャリアデザインＩでは、ワークやグループディスカッション等を通して「自分を知る」「社会を知る」「学問とのつながりを考える」ことを中心に、自分（皆さんひとりひとり）にとっていい人生を送るために「生き方」「働き方」「大学生活の過ごし方」を自分で考え、行動するきっかけをつくります。 この講座を受講することにより、 　①社会に出る（就職）ための準備や練習を今のうちから始めることができます。 　②あなた自身の大学生活をより充実させることができます。
到達目標	以下３点を目標として設定しています。 ①「自分の良さを知る」：自分のいいところを一つでも自信をもって語れるようになる ②「コミュニケーション力を磨く」：自分の意見を臆することなく話し、相手の主張をしっかり受け止められるようになる ③「目標の立て方を知る」：大学生活の中での目標とその実行計画を立てることができる
授業計画	第 1回　キャリアデザインって何だろう？　～大学生活で何を身につけるか？～ 第 2回　コミュニケーションは社会のベース 第 3回　自分について考えよう　～大学生活で強みを伸ばす～ 第 4回　あなたの強みは？　①自分の強みを考えてみよう 第 5回　あなたの強みは？　②強みから職業を考えてみよう 第 6回　社会で活きる 第 7回　社会が求める人材って？ 第 8回　職種・資格について考えよう 第 9回　社会のトレンドを読む！ 第10回　社会と学問の関係は？ 第11回　「学び」の意味を考えよう！ 第12回　私のキャリアデザインマップ作成① 第13回　私のキャリアデザインマップ作成②～発表 第14回　目標に向かってチャレンジしよう　　※レポート類提出 第15回　まとめ　～これからの大学生活をどう過ごすか～　※テスト実施
授業外における学習（準備学習の内容）	以下の２点を行い、レポート等の課題として予定しています。 ・内定者の先輩の話を聞きに行く　※設定時期等は授業内で連絡 ・仕事をしている人のインタビューをし、まとめる
授業方法	演習中心
評価基準と評価方法	平常点及びプレゼン点を50%、レポートやワークシート等の課題提出とテストの結果50%を基準とし、総合的に判断します。 ◎平常点及びプレゼン点について ①毎回書く，コミュニケーションシート。テーマは講師が指定します。 　コミュニケーションシートの提出が9回以下の場合は、平常点は0点になります。 　また、講義への参加態度（積極性、主体性、協調性など）も平常点に含みますので、参加態度により加点・減点をします。 ②私のキャリアデザインマップの発表。プレゼン内容を評価の対象とします。 ◎レポートやワークシート・テストについて ③講義で使用するワークシートのうち、講師が指定したものをコピーして提出。 ④講座終了時のレポート提出。 ⑤講義内で使用する「大学生基礎力レポートＩ」の学力部分に付随するテスト。テストの内容は「国語基礎」「数学基礎」での開講内容とリンクしています。 ＊具体的な課題内容については講座終盤に発表し、講義時に提出を求める予定です。

教科書	「MY　CAREER　NOTE　Ⅰ（ADVANCE）」 　ワーク等で使いますので、毎回必ず持参してください。
参考書	4月に全員が受検する「大学生基礎力レポートⅠ」の結果（自宅に郵送）を授業で使います。 「MY　CAREER　NOTE　Ⅰ（ADVANCE）」とともに保管して下さい。

－　　－　　－

科目区分	キャリア系列／キャリア・ビジネス教育系列						
科目名	キャリアデザインI						
担当教員	増永　理彦・中山　一郎						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	木曜4	配当学年	1	単位数	2.0

授業のテーマ	「キャリア」とはどういう人生を送りたいか常に考え続けることです。キャリアのスタートラインに立つ大学生のうちに、その基本となる考え方や行動の仕方を学びます。
授業の概要	自分や社会を知りながら、「生き方」「働き方」「大学生活の過ごし方」を自分で考え、行動するきっかけをつくる授業です。 これから始まる4年間の大学生活をどう過ごすかは、将来に大きな影響を与えます。キャリアデザインＩでは、ワークやグループディスカッション等を通して「自分を知る」「社会を知る」「学問とのつながりを考える」ことを中心に、自分（皆さんひとりひとり）にとっていい人生を送るために「生き方」「働き方」「大学生活の過ごし方」を自分で考え、行動するきっかけをつくります。 この講座を受講することにより、 　①社会に出る（就職）ための準備や練習を今のうちから始めることができます。 　②あなた自身の大学生活をより充実させることができます。
到達目標	以下３点を目標として設定しています。 ①「自分の良さを知る」：自分のいいところを一つでも自信をもって語れるようになる ②「コミュニケーション力を磨く」：自分の意見を臆することなく話し、相手の主張をしっかり受け止められるようになる ③「目標の立て方を知る」：大学生活の中での目標とその実行計画を立てることができる
授業計画	第 1回　キャリアデザインって何だろう？　～大学生活で何を身につけるか？～ 第 2回　コミュニケーションは社会のベース 第 3回　自分について考えよう　～大学生活で強みを伸ばす～ 第 4回　あなたの強みは？　①自分の強みを考えてみよう 第 5回　あなたの強みは？　②強みから職業を考えてみよう 第 6回　社会で活きる 第 7回　社会が求める人材って？ 第 8回　職種・資格について考えよう 第 9回　社会のトレンドを読む！ 第10回　社会と学問の関係は？ 第11回　「学び」の意味を考えよう！ 第12回　私のキャリアデザインマップ作成① 第13回　私のキャリアデザインマップ作成②～発表 第14回　目標に向かってチャレンジしよう　　※レポート類提出 第15回　まとめ　～これからの大学生活をどう過ごすか～　※テスト実施
授業外における学習（準備学習の内容）	以下の２点を行い、レポート等の課題として予定しています。 ・内定者の先輩の話を聞きに行く　※設定時期等は授業内で連絡 ・仕事をしている人のインタビューをし、まとめる
授業方法	演習中心
評価基準と評価方法	平常点及びプレゼン点を50%、レポートやワークシート等の課題提出とテストの結果50%を基準とし、総合的に判断します。 ◎平常点及びプレゼン点について ①毎回書く，コミュニケーションシート。テーマは講師が指定します。 　コミュニケーションシートの提出が9回以下の場合は、平常点は0点になります。 　また、講義への参加態度（積極性、主体性、協調性など）も平常点に含みますので、参加態度により加点・減点をします。 ②私のキャリアデザインマップの発表。プレゼン内容を評価の対象とします。 ◎レポートやワークシート・テストについて ③講義で使用するワークシートのうち、講師が指定したものをコピーして提出。 ④講座終了時のレポート提出。 ⑤講義内で使用する「大学生基礎力レポートＩ」の学力部分に付随するテスト。テストの内容は「国語基礎」「数学基礎」での開講内容とリンクしています。 ＊具体的な課題内容については講座終盤に発表し、講義時に提出を求める予定です。

教科書	「MY　CAREER　NOTE　Ⅰ（ADVANCE）」 　ワーク等で使いますので、毎回必ず持参してください。
参考書	4月に全員が受検する「大学生基礎力レポートⅠ」の結果（自宅に郵送）を授業で使います。 「MY　CAREER　NOTE　Ⅰ（ADVANCE）」とともに保管して下さい。

－　　－　　－

科目区分	キャリア系列／キャリア・ビジネス教育系列						
科目名	キャリアデザインII						
担当教員	土肥　伊都子・池松　華奈子						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	「キャリア」とはどういう人生を送りたいか常に考え続けることです。キャリアのスタートラインに立つ大学生のうちに、その基本となる考え方や行動の仕方を学びます。
授業の概要	就職活動の流れや実態を知り、社会で求められる基本スキルを身につける。 3年冬からの本格的な就職活動に臨む前に、就職活動の流れを知り、自分を知り、社会を知り、社会で求められる基本的スキルを身につけておくことは、より自分に合った進路選択ができる可能性が高まり、また自信にもつながります。キャリアデザインⅡでは、ワークやグループディスカッション、プレゼンテーション等を通して、自分や社会を知りながら「社会で求められる基本的スキル（コミュニケーション力・情報収集力・論理的思考力）」を身につけていきます。 この講座を受講することにより、 ①社会に出る（就職）ための準備や練習を今のうちから始めることができます。 ②業界・企業について調べ方を知ることで、後の就職活動に役立てることができます。 ③あなた自身の大学生活をより充実させることができます。 ＊ただし、表面的な就職活動ノウハウを伝授するものではありません。社会で必要となる力を、学びや大学生活を通じて獲得するためのものです。
到達目標	以下３点を目標として設定しています。 「社会で求められる力を知る」：社会で求められる基本の力を知り、学生生活の中でどうのばしていくかイメージできる。 「業界・企業・仕事について調べ方を学ぶ」：情報収集の仕方を学び行動することができる。 「目標を実行に移せる」：大学生活の中で立てた目標を実行にうつすことができる。
授業計画	第 1回　キャリアデザインとは？就職活動について知ろう 第 2回　大学生活で身につく力を考える 第 3回　女性としてのキャリアを考える ～現在の就職環境を知り、自分の将来について考えよう　～ 第 4回　ワークスタイルの研究①（企業で働くことをイメージする） 第 5回　ワークスタイルの研究②（様々な仕事の仕方を知る） 第 6回　社会で必要となる力とは①（コミュニケーション力・タイムマネジメント力） 第 7回　社会で必要となる力とは②（情報収集力・論理的思考力） 第 8回　業界について知ろう① 第 9回　業界について知ろう② 第10回　業界研究①実践編　グループワーク 第11回　業界研究②実践編　グループワーク　書画カメラの教室を使用させてください 第12回　業界研究③実践編　グループワーク　書画カメラの教室を使用させてください 第13回　業界研究④実践編　プレゼンテーション書画カメラの教室を使用させてください 第14回　目標と行動計画を立てよう　　※課題提出 第15回　行動計画発表＆まとめ
授業外における学習（準備学習の内容）	・パソコンを使った情報検索、発表資料の製作演習 ・内定者の先輩の話を聞く　※設定可能な場合に実施。
授業方法	演習中心
評価基準と評価方法	平常点45%、レポートやワークシート等の課題提出35%、グループワークやプレゼンテーションへの取り組み20%を基準とし、総合的に判断します。 ①　毎回コミュニケーションシートを記入。（45点満点：テーマは講師が指定） コミュニケーションシートの提出が9回以下の場合は、平常点は0点になります。 また、講義への参加態度（積極性、主体性、協調性など）もここに含みますので、参加態度がよくない場合は減点をします。 ②　講師が指定するワークシートやレポートを提出。（35点満点） ＊具体的な課題内容については講座中に発表し、講座終盤に提出していただく予定です。 ③　グループワークやプレゼンテーションへ取り組み。(20点満点)
教科書	「MY　CAREER　NOTE　I（BASIC）」 ワーク等で使いますので、毎回必ず持参してください。

参考書	

－　　－　　－

科目区分	キャリア系列／キャリア・ビジネス教育系列						
科目名	キャリアデザインII						
担当教員	土肥　伊都子・池松　華奈子						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	「キャリア」とはどういう人生を送りたいか常に考え続けることです。キャリアのスタートラインに立つ大学生のうちに、その基本となる考え方や行動の仕方を学びます。
授業の概要	就職活動の流れや実態を知り、社会で求められる基本スキルを身につける。 3年冬からの本格的な就職活動に臨む前に、就職活動の流れを知り、自分を知り、社会を知り、社会で求められる基本的スキルを身につけておくことは、より自分に合った進路選択ができる可能性が高まり、また自信にもつながります。キャリアデザインⅡでは、ワークやグループディスカッション、プレゼンテーション等を通して、自分や社会を知りながら「社会で求められる基本的スキル（コミュニケーション力・情報収集力・論理的思考力）」を身につけていきます。 この講座を受講することにより、 　①社会に出る（就職）ための準備や練習を今のうちから始めることができます。 ②業界・企業について調べ方を知ることで、後の就職活動に役立てることができます。 　③あなた自身の大学生活をより充実させることができます。 　＊ただし、表面的な就職活動ノウハウを伝授するものではありません。社会で必要となる力を、学びや大学生活を通じて獲得するためのものです。
到達目標	以下３点を目標として設定しています。 「社会で求められる力を知る」：社会で求められる基本の力を知り、学生生活の中でどうのばしていくかイメージできる。 「業界・企業・仕事について調べ方を学ぶ」：情報収集の仕方を学び行動することができる。 「目標を実行に移せる」：大学生活の中で立てた目標を実行にうつすことができる。
授業計画	第 1回　キャリアデザインとは？就職活動について知ろう 第 2回　大学生活で身につく力を考える 第 3回　女性としてのキャリアを考える 　　～現在の就職環境を知り、自分の将来について考えよう　～ 第 4回　ワークスタイルの研究①（企業で働くことをイメージする） 第 5回　ワークスタイルの研究②（様々な仕事の仕方を知る） 第 6回　社会で必要となる力とは①（コミュニケーション力・タイムマネジメント力） 第 7回　社会で必要となる力とは②（情報収集力・論理的思考力） 第 8回　業界について知ろう① 第 9回　業界について知ろう② 第10回　業界研究①実践編　グループワーク 第11回　業界研究②実践編　グループワーク　書画カメラの教室を使用させてください 第12回　業界研究③実践編　グループワーク　書画カメラの教室を使用させてください 第13回　業界研究④実践編　プレゼンテーション書画カメラの教室を使用させてください 第14回　目標と行動計画を立てよう　　※課題提出 第15回　行動計画発表＆まとめ
授業外における学習（準備学習の内容）	・パソコンを使った情報検索、発表資料の製作演習 ・内定者の先輩の話を聞く　※設定可能な場合に実施。
授業方法	演習中心
評価基準と評価方法	平常点45%、レポートやワークシート等の課題提出35%、グループワークやプレゼンテーションへの取り組み20%を基準とし、総合的に判断します。 ①　毎回コミュニケーションシートを記入。（45点満点：テーマは講師が指定） 　コミュニケーションシートの提出が9回以下の場合は、平常点は0点になります。 　また、講義への参加態度（積極性、主体性、協調性など）もここに含みますので、参加態度がよくない場合は減点をします。 ②　講師が指定するワークシートやレポートを提出。（35点満点） 　　＊具体的な課題内容については講座中に発表し、講座終盤に提出していただく予定です。 ③　グループワークやプレゼンテーションへ取り組み。(20点満点)
教科書	「MY　CAREER　NOTE　I（BASIC）」 　ワーク等で使いますので、毎回必ず持参してください。

参考書	

－　　－　　－

科目区分	キャリア系列／キャリア・ビジネス教育系列						
科目名	キャリアデザインII						
担当教員	土肥　伊都子・田中　由子						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	「キャリア」とはどういう人生を送りたいか常に考え続けることです。キャリアのスタートラインに立つ大学生のうちに、その基本となる考え方や行動の仕方を学びます。
授業の概要	就職活動の流れや実態を知り、社会で求められる基本スキルを身につける。 3年冬からの本格的な就職活動に臨む前に、就職活動の流れを知り、自分を知り、社会を知り、社会で求められる基本的スキルを身につけておくことは、より自分に合った進路選択ができる可能性が高まり、また自信にもつながります。キャリアデザインⅡでは、ワークやグループディスカッション、プレゼンテーション等を通して、自分や社会を知りながら「社会で求められる基本的スキル（コミュニケーション力・情報収集力・論理的思考力）」を身につけていきます。 この講座を受講することにより、 ①社会に出る（就職）ための準備や練習を今のうちから始めることができます。 ②業界・企業について調べ方を知ることで、後の就職活動に役立てることができます。 ③あなた自身の大学生活をより充実させることができます。 ＊ただし、表面的な就職活動ノウハウを伝授するものではありません。社会で必要となる力を、学びや大学生活を通じて獲得するためのものです。
到達目標	以下３点を目標として設定しています。 「社会で求められる力を知る」：社会で求められる基本の力を知り、学生生活の中でどうのばしていくかイメージできる。 「業界・企業・仕事について調べ方を学ぶ」：情報収集の仕方を学び行動することができる。 「目標を実行に移せる」：大学生活の中で立てた目標を実行にうつすことができる。
授業計画	第 1回　キャリアデザインとは？就職活動について知ろう 第 2回　大学生活で身につく力を考える 第 3回　女性としてのキャリアを考える ～現在の就職環境を知り、自分の将来について考えよう　～ 第 4回　ワークスタイルの研究①（企業で働くことをイメージする） 第 5回　ワークスタイルの研究②（様々な仕事の仕方を知る） 第 6回　社会で必要となる力とは①（コミュニケーション力・タイムマネジメント力） 第 7回　社会で必要となる力とは②（情報収集力・論理的思考力） 第 8回　業界について知ろう① 第 9回　業界について知ろう② 第10回　業界研究①実践編　グループワーク 第11回　業界研究②実践編　グループワーク　書画カメラの教室を使用させてください 第12回　業界研究③実践編　グループワーク　書画カメラの教室を使用させてください 第13回　業界研究④実践編　プレゼンテーション書画カメラの教室を使用させてください 第14回　目標と行動計画を立てよう　　※課題提出 第15回　行動計画発表＆まとめ
授業外における学習（準備学習の内容）	・パソコンを使った情報検索、発表資料の製作演習 ・内定者の先輩の話を聞く　※設定可能な場合に実施。
授業方法	演習中心
評価基準と評価方法	平常点45%、レポートやワークシート等の課題提出35%、グループワークやプレゼンテーションへの取り組み20%を基準とし、総合的に判断します。 ①　毎回コミュニケーションシートを記入。（45点満点：テーマは講師が指定） コミュニケーションシートの提出が9回以下の場合は、平常点は0点になります。 また、講義への参加態度（積極性、主体性、協調性など）もここに含みますので、参加態度がよくない場合は減点をします。 ②　講師が指定するワークシートやレポートを提出。（35点満点） ＊具体的な課題内容については講座中に発表し、講座終盤に提出していただく予定です。 ③　グループワークやプレゼンテーションへ取り組み。(20点満点)
教科書	「MY　CAREER　NOTE　I（BASIC）」 ワーク等で使いますので、毎回必ず持参してください。

参考書	

－　　－　　－

科目区分	キャリア系列／キャリア・ビジネス教育系列						
科目名	キャリアデザイン研究						
担当教員	単位認定者：青谷　実知代						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	3	単位数	2.0

授業のテーマ	ゲストスピーカー（現場担当者）から業界・業種の現状を伺い、社会の現場を知ると共に就職活動で活かせる取り組み（志望動機や自己PRを考える。
授業の概要	IT化・グローバル化の進展、産業構造の変化、企業浮沈等、変革が激しい現代を生きていく学生に、現場で実践を積んでおられる多様な講師をお招きし、広範囲な職業観や勤労観を学びます。
到達目標	①職場や地域で活躍する上で必要な知識を身につけることができる。 ②業種と業界の違いを理解し、説明することができる。 ③就職活動で活かせる志望動機や自己PRが書けるようになる。
授業計画	本講義はそれぞれの講師が下記の講義項目について、1コマずつ担当するオムニバス形式による授業です。この科目はキャリア教育センターが開講するもので、学生に「各業界の現状と今後の展望」を紹介し、「各業界に必要な資質とその涵養」について理解させることを目的とします。 第1回　4月14日　業界・業種研究を深めキャリアデザインを考える　青谷実知代 第2回　4月21日　【サービス・旅行業】㈱日本旅行 第3回　4月28日　【広告代理店業】㈱JR西日本コミュニケーションズ 第4回　5月12日　【放送業】㈱毎日放送 第5回　5月19日　【宿泊業】㈱神戸ポートピアホテル 第6回　5月26日　【ブライダル業】高見㈱ 第7回　6月2日　【製造業】㈱ワコール 第8回　6月9日　【公務】神戸公共職業安定所 第9回　6月16日　【情報通信業】㈱エヌゲージ 第10回　6月23日　【卸売・小売業】帝人フロンティア㈱ 第11回　6月30日　【金融・保険業】㈱みずほフィナンシャルグループ 第12回　7月7日　【マーケティング業】㈱ラポール 第13回　7月14日　【製造業】白鶴酒造㈱ 第14回　7月21日　【運輸業】西日本旅客鉄道㈱ 第15回　7月28日　業界の様々な取り組みとキャリアデザイン（総まとめ）青谷実知代
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：日頃から新聞や情報誌を読み、関心ある業界の傾向をつかむ。 授業後学習：学んだ企業の会社概況などを読み、企業の理解を深める。
授業方法	オムニバス形式の講義
評価基準と評価方法	授業毎のレポート（60%）、課題レポート（2回）（40%）
教科書	なし（必要に応じて資料を配布する）
参考書	授業中に紹介する。

－　　－　　－

科目区分	キャリア系列／キャリア・ビジネス教育系列						
科目名	キャリアデザイン研究						
担当教員	単位認定者：青谷　実知代						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	3	単位数	2.0

授業のテーマ	ゲストスピーカー（現場担当者）から業界・業種の現状を伺い、社会の現場を知ると共に就職活動で活かせる取り組み（志望動機や自己PRを考える。
授業の概要	IT化・グローバル化の進展、産業構造の変化、企業浮沈等、変革が激しい現代を生きていく学生に、現場で実践を積んでおられる多様な講師をお招きし、広範囲な職業観や勤労観を学びます。
到達目標	①職場や地域で活躍する上で必要な知識を身につけることができる。 ②業種と業界の違いを理解し、説明することができる。 ③就職活動で活かせる志望動機や自己PRが書けるようになる。
授業計画	本講義はそれぞれの講師が下記の講義項目について、1コマずつ担当するオムニバス形式による授業です。この科目はキャリア教育センターが開講するもので、学生に「各業界の現状と今後の展望」を紹介し、「各業界に必要な資質とその涵養」について理解させることを目的とします。 第1回　9月29日　業界・業種研究を深めキャリアデザインを考える　青谷実知代 第2回　10月6日　【食品・アグリ】NPO法人ﾌｰﾄﾞﾊﾞﾝｸ 第3回　10月13日　【製造・子供服】㈱ミキハウス 第4回　10月20日　【サービス・ﾌﾞﾗｲﾀﾞﾙ業】高見㈱ 第5回　10月27日　【証券・保険業界】野村証券 第6回　11月10日　【商社】帝人フロンティア㈱ 第7回　11月17日　【生活・運輸業界】JR西日本旅客鉄道㈱ 第8回　11月24日　【サービス・旅行業界】㈱日本旅行 第9回　12月1日　【情報・通信業界】㈱ラポール 第10回　12月8日　【ＩＴ・教育業界】㈱エヌゲージ 第11回　12月15日　【製造業】㈱ワコール 第12回　12月22日　【マスコミ業界】毎日放送 第13回　1月12日　【銀行業界】みずほフィナンシャルグループ 第14回　1月19日　【住宅業】大和ハウス工業㈱ 第15回　1月26日　業界の様々な取り組みとキャリアデザイン（総まとめ）青谷実知代
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：日頃から新聞や情報誌を読み、関心ある業界の傾向をつかむ。 授業後学習：学んだ企業の会社概況などを読み、企業の理解を深める。
授業方法	オムニバス形式の講義
評価基準と評価方法	授業毎のレポート（60%）、課題レポート（2回）（40%）
教科書	なし（必要に応じて資料を配布する）
参考書	授業中に紹介する。

－　　－　　－

科目区分	キャリア系列／キャリア・ビジネス教育系列						
科目名	企業の基礎知識						
担当教員	倉島　進						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	経済の仕組みと企業の仕組みを理解する
授業の概要	大学を卒業すれば、社会人として企業で働く人も多いと思います。資本主義社会においては、企業活動を通じて、経済活動を行い人々は、生活しています。 社会人として、最低限知っておかなければならない事から、就職活動において知っていれば有利な知識まで、選りすぐり、講義していきます。 講義は大きく2つに分かれており、ひとつは社会の仕組みもうひとつは、企業の仕組みです。 社会の仕組みについては、日本経済の仕組みをお金の存在から説明していき、政府、企業、個人の役割について説明します。 特に、経済用語は、通常の会話ではなかなか出てきませんが、一つの事象から言葉に注目し、その事象に必要な経済用語、企業用語を解説するといった形で講義を進めてきます。これらの知識は、無理から暗記するのではなく、自然に体得することが重要と考えています。このため、経済用語を理解するための手助けとして、最近の新聞からのニュースを取り上げ、内容理解を高めます。 企業のしくみでは、株式会社の仕組みから、会社の組織や、業務の内容、業務の流れ、を通じて、企業の概略を理解深めます。 また、これから企業に働くに当って、従業員として、就職し、退職するまでのながれや、労働者の権利、そして最後には、企業が社会に存在するための最低限の社会的責任について説明します。
到達目標	日経新聞や日ごろの経済ニュースの内容が理解できる程度の知識の習得を行う。特に、経済、問題についての理解を深める
授業計画	1　オリエンテーション　講義の進め方や、経済、社会、企業の関係について説明します。 2　社会の仕組み（お金に関する知識）経済を動かす仕組みとしてお金の存在に注目します。 3　社会の仕組み（お金と経済の知識①）お金によって、物価が変動したり、為替が変動したりする仕組みについて説明します。 4　社会の仕組み（お金と経済の知識②）GDPの仕組みについて簡単に説明します。 5　社会の仕組み（企業、業種について）業種、業界といった企業の分類について説明します。 6　企業の仕組み（株式会社のしくみ）　今までのまとめとして、経済の動きと株式会社の役割のビデオを見ます。 7　企業の仕組み（株式のしくみ）　株式会社の仕組みにである株主について勉強します。 8　社会の仕組み（政府の収入、支出～税金のしくみ）日本政府の財政について説明するとともに、税金の仕組みを解説します。 9　企業の仕組み（職種の話）　会社のそれぞれの職種やその役割について説明します。 10 企業の仕組み（従業員として働くこと）従業員として就職から退職までの流れや、給与の仕組みについて説明します。 11 企業の仕組み（会社の業務や社内の取組について）会社の内部のしくみについてビデオをみて職種等について理解を深めます。 12 社会の仕組み（金融商品と利回り）　様々な金融商品が存在しますが、概略を解説します 13 企業の仕組み（企業の社会的責任）　企業の社会的責任とは何なのか？について、考えていきます。 14 企業の仕組み（会社の数字）　会社の決算について説明します。 15 総まとめ　1年の総まとめを行います。 今後の経済情勢の変化によっては、講義内容の一部を変更することがあります。
授業外における学習（準備学習の内容）	日ごろから、日経新聞等のニュースに注目しておいてください。
授業方法	各回のテーマに沿ったプリントを作成し、そのプリントを中心に授業を進めていきます。 プリントにおいては、いくつかの質問事項や、みなさんで検討することも盛り込んでいます。 これらをみなさんと一緒に解決することで、理解力を高めていきます。 参加型の授業を目指していますので、授業中の発言に対して、加点します。どんどん発言してください。（正解不正解は関係ありません）
評価基準と評価方法	評価は、授業の出席、授業中の発表（小テストを含む）、レポートを加味して評価する。 平常点５０％、残りで５０％

教科書	特になし
参考書	初回授業時に発表する

－　　－　　－

科目区分	キャリア系列／キャリア・ビジネス教育系列						
科目名	企業の基礎知識						
担当教員	倉島　進						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	2	単位数	2.0

授業のテーマ	経済の仕組みと企業の仕組みを理解する
授業の概要	大学を卒業すれば、社会人として企業で働く人も多いと思います。資本主義社会においては、企業活動を通じて、経済活動を行い人々は、生活しています。 社会人として、最低限知っておかなければならない事から、就職活動において知っていれば有利な知識まで、選りすぐり、講義していきます。 講義は大きく2つに分かれており、ひとつは社会の仕組みもうひとつは、企業の仕組みです。 社会の仕組みについては、日本経済の仕組みをお金の存在から説明していき、政府、企業、個人の役割について説明します。 特に、経済用語は、通常の会話ではなかなか出てきませんが、一つの事象から言葉に注目し、その事象に必要な経済用語、企業用語を解説するといった形で講義を進めてきます。これらの知識は、無理から暗記するのではなく、自然に体得することが重要と考えています。このため、経済用語を理解するための手助けとして、最近の新聞からのニュースを取り上げ、内容理解を高めます。 企業のしくみでは、株式会社の仕組みから、会社の組織や、業務の内容、業務の流れ、を通じて、企業の概略を理解深めます。 また、これから企業に働くに当って、従業員として、就職し、退職するまでのながれや、労働者の権利、そして最後には、企業が社会に存在するための最低限の社会的責任について説明します。
到達目標	日経新聞や日ごろの経済ニュースの内容が理解できる程度の知識の習得を行う。特に、経済、問題についての理解を深める
授業計画	1　オリエンテーション　講義の進め方や、経済、社会、企業の関係について説明します。 2　社会の仕組み（お金に関する知識）経済を動かす仕組みとしてお金の存在に注目します。 3　社会の仕組み（お金と経済の知識①）お金によって、物価が変動したり、為替が変動したりする仕組みについて説明します。 4　社会の仕組み（お金と経済の知識②）GDPの仕組みについて簡単に説明します。 5　社会の仕組み（企業、業種について）業種、業界といった企業の分類について説明します。 6　企業の仕組み（株式会社のしくみ）　今までのまとめとして、経済の動きと株式会社の役割のビデオを見ます。 7　企業の仕組み（株式のしくみ）　株式会社の仕組みにである株主について勉強します。 8　社会の仕組み（政府の収入、支出～税金のしくみ）日本政府の財政について説明するとともに、税金の仕組みを解説します。 9　企業の仕組み（職種の話）　会社のそれぞれの職種やその役割について説明します。 10 企業の仕組み（従業員として働くこと）従業員として就職から退職までの流れや、給与の仕組みについて説明します。 11 企業の仕組み（会社の業務や社内の取組について）会社の内部のしくみについてビデオをみて職種等について理解を深めます。 12 社会の仕組み（金融商品と利回り）　様々な金融商品が存在しますが、概略を解説します 13 企業の仕組み（企業の社会的責任）　企業の社会的責任とは何なのか？について、考えていきます。 14 企業の仕組み（会社の数字）　会社の決算について説明します。 15 総まとめ　1年の総まとめを行います。 今後の経済情勢の変化によっては、講義内容の一部を変更することがあります。
授業外における学習（準備学習の内容）	日ごろから、日経新聞等のニュースに注目しておいてください。
授業方法	各回のテーマに沿ったプリントを作成し、そのプリントを中心に授業を進めていきます。 プリントにおいては、いくつかの質問事項や、みなさんで検討することも盛り込んでいます。 これらをみなさんと一緒に解決することで、理解力を高めていきます。 参加型の授業を目指していますので、授業中の発言に対して、加点します。どんどん発言してください。（正解不正解は関係ありません）
評価基準と評価方法	評価は、授業の出席、授業中の発表（小テストを含む）、レポートを加味して評価する。 平常点５０％、残りで５０％

教科書	特になし
参考書	初回授業時に発表する

－　　－　　－

科目区分	キャリア系列／キャリア・ビジネス教育系列						
科目名	金融リテラシー						
担当教員	植田　麻衣子・松永　邦哉						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	2～3	単位数	2.0

授業のテーマ	将来のライフプランを作成し、お金の観点から今後の人生を考えるとともに、FP技能士３級レベルの社会保険・生命保険・資産運用等、お金に関する知識を習得する。
授業の概要	お金に関する知識は、今後人生の中で非常に重要なものです。就職して初めて貰う給料から始まり、自分の人生の保障となる社会保険や年金、生命保険、貯蓄としての預金や株式への投資、そして最大の支出である、結婚、住宅の購入、子供の教育費、そして、財産の次世代への移管である贈与や相続といった形で一生関わりのあるものです。 しかし、どの分野を取っても専門的な知識が多くなんとなく取組にくいものです。 しかし、詳しい内容はそれぞれ個々で相談や検討するにしても、その前提となる基礎知識を持っていることは、非常に重要なことと考えられます。 本講座では、これらの知識を広く知るとととともに、お金の観点から計画性と希望をもって今後の人生について考えてもらうことを目的としています。
到達目標	本講座では、最終知識レベルとして、FP技能士3級の知識を想定しています
授業計画	1.オリエンテーション・・・授業の概要の説明　松永 2.【しる】ライフイベントを知る・・・将来起こりうる様々な出来事をしり、どれくらいのお金がかかるのかを知る　松永 3.ライフプランニングその１（実習）・・・グループで一つの家庭のライフイベントを話し合いで作成する　松永 4.ライフプランニングその２（実習）・・・作成したライフイベントをライフプランニング表にまとめてみる。ライフプランニング表提出　松永 5.【しる】人生のリスク【まもる】社会保険の知識その１・・・将来のリスク（不安）の解消方法を知る　給与明細の見方の解説　　松永 6.【まもる】社会保険の知識その２・・・給与から控除される社会保険料について解説　松永 7.【まもる】生命保険の知識・・・生命保険のしくみと概要の解説　松永 8.【まもる】損害保険の知識・・・損害保険のしくみと概要の解説　松永 9.【ふやす】金融商品のしくみ　総論・・・お金を増やすとは　リスクとリターンについて解説　植田 10.【ふやす】金融商品のしくみ　各論・・・預金・株・国債などの具体的な資産運用手段について理解する　植田 11.【おさめる】税金の知識・・・所得税のしくみを中心に税金の知識を取得する　植田 12.【つかう】不動産・車の購入のしかた　その１・・・住宅・車購入の際に知っておくべきこと・注意すべき点を解説　植田 13.【つかう】不動産・車の購入のしかた　その２・・・住宅ローン・カーリース等に関する知識の取得　植田 14.【のこす】贈与・相続に関する知識・・・贈与や相続に関する法律上知っておくべき知識や税金の話　植田 15.終了試験・・・FP技能士３級レベルの試験と評価　植田
授業外における学習（準備学習の内容）	金融の言葉の一部は難解な言葉もあります。日頃から新聞・テレビ等で経済に関するニュースに興味をもって接してください（とくに日経平均株価・為替レート・年金・税金の情報など）。
授業方法	講義形式、演習形式で実施します。 レジメにもとづいて授業を行います。
評価基準と評価方法	出席、試験成績の各点数と授業態度（課題提出の有無や自主発表）を総合的に評価します。 割合は、平常点（出席含む）６０％、試験４０％
教科書	なし
参考書	署名：女性の「お金力」養成塾 著者：倉島進・植田麻衣子 出版社：セルバ出版 ISBN978-4-86367-025-9

－　　－　　－

科目区分	キャリア系列／キャリア・ビジネス教育系列						
科目名	金融リテラシー						
担当教員	植田　麻衣子・松永　邦哉						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	火曜5	配当学年	2～3	単位数	2.0

授業のテーマ	将来のライフプランを作成し、お金の観点から今後の人生を考えるとともに、FP技能士３級レベルの社会保険・生命保険・資産運用等、お金に関する知識を習得する。
授業の概要	お金に関する知識は、今後人生の中で非常に重要なものです。就職して初めて貰う給料から始まり、自分の人生の保障となる社会保険や年金、生命保険、貯蓄としての預金や株式への投資、そして最大の支出である、結婚、住宅の購入、子供の教育費、そして、財産の次世代への移管である贈与や相続といった形で一生関わりのあるものです。 しかし、どの分野を取っても専門的な知識が多くなんとなく取組にくいものです。 しかし、詳しい内容はそれぞれ個々で相談や検討するにしても、その前提となる基礎知識を持っていることは、非常に重要なことと考えられます。 本講座では、これらの知識を広く知るとととともに、お金の観点から計画性と希望をもって今後の人生について考えてもらうことを目的としています。
到達目標	本講座では、最終知識レベルとして、FP技能士3級の知識を想定しています
授業計画	1.オリエンテーション・・・授業の概要の説明　松永 2.【しる】ライフイベントを知る・・・将来起こりうる様々な出来事をしり、どれくらいのお金がかかるのかを知る　松永 3.ライフプランニングその１（実習）・・・グループで一つの家庭のライフイベントを話し合いで作成する　松永 4.ライフプランニングその２（実習）・・・作成したライフイベントをライフプランニング表にまとめてみる。ライフプランニング表提出　松永 5.【しる】人生のリスク【まもる】社会保険の知識その１・・・将来のリスク（不安）の解消方法を知る　給与明細の見方の解説　　松永 6.【まもる】社会保険の知識その２・・・給与から控除される社会保険料について解説　松永 7.【まもる】生命保険の知識・・・生命保険のしくみと概要の解説　松永 8.【まもる】損害保険の知識・・・損害保険のしくみと概要の解説　松永 9.【ふやす】金融商品のしくみ　総論・・・お金を増やすとは　リスクとリターンについて解説　植田 10.【ふやす】金融商品のしくみ　各論・・・預金・株・国債などの具体的な資産運用手段について理解する　植田 11.【おさめる】税金の知識・・・所得税のしくみを中心に税金の知識を取得する　植田 12.【つかう】不動産・車の購入のしかた　その１・・・住宅・車購入の際に知っておくべきこと・注意すべき点を解説　植田 13.【つかう】不動産・車の購入のしかた　その２・・・住宅ローン・カーリース等に関する知識の取得　植田 14.【のこす】贈与・相続に関する知識・・・贈与や相続に関する法律上知っておくべき知識や税金の話　植田 15.終了試験・・・FP技能士３級レベルの試験と評価　植田
授業外における学習（準備学習の内容）	金融の言葉の一部は難解な言葉もあります。日頃から新聞・テレビ等で経済に関するニュースに興味をもって接してください（とくに日経平均株価・為替レート・年金・税金の情報など）。
授業方法	講義形式、演習形式で実施します。 レジメにもとづいて授業を行います。
評価基準と評価方法	出席、試験成績の各点数と授業態度（課題提出の有無や自主発表）を総合的に評価します。 割合は、平常点（出席含む）６０％、試験４０％
教科書	なし
参考書	署名：女性の「お金力」養成塾 著者：倉島進・植田麻衣子 出版社：セルバ出版 ISBN978-4-86367-025-9

－　　－　　－

科目区分	キャリア系列／キャリア・ビジネス教育系列						
科目名	金融リテラシー						
担当教員	植田　麻衣子・松永　邦哉						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	2～3	単位数	2.0

授業のテーマ	将来のライフプランを作成し、お金の観点から今後の人生を考えるとともに、FP技能士３級レベルの社会保険・生命保険・資産運用等、お金に関する知識を習得する。
授業の概要	お金に関する知識は、今後人生の中で非常に重要なものです。就職して初めて貰う給料から始まり、自分の人生の保障となる社会保険や年金、生命保険、貯蓄としての預金や株式への投資、そして最大の支出である、結婚、住宅の購入、子供の教育費、そして、財産の次世代への移管である贈与や相続といった形で一生関わりのあるものです。 しかし、どの分野を取っても専門的な知識が多くなんとなく取組にくいものです。 しかし、詳しい内容はそれぞれ個々で相談や検討するにしても、その前提となる基礎知識を持っていることは、非常に重要なことと考えられます。 本講座では、これらの知識を広く知るとととともに、お金の観点から計画性と希望をもって今後の人生について考えてもらうことを目的としています。
到達目標	本講座では、最終知識レベルとして、FP技能士3級の知識を想定しています
授業計画	1.オリエンテーション・・・授業の概要の説明　植田 2.【しる】ライフイベントを知る・・・将来起こりうる様々な出来事をしり、どれくらいのお金がかかるのかを知る　松永 3.ライフプランニングその１（実習）・・・グループで一つの家庭のライフイベントを話し合いで作成する　松永 4.ライフプランニングその２（実習）・・・作成したライフイベントをライフプランニング表にまとめてみる。ライフプランニング表提出　松永 5.【しる】人生のリスク【まもる】社会保険の知識その１・・・将来のリスク（不安）の解消方法を知る　給与明細の見方の解説　　松永 6.【まもる】社会保険の知識その２・・・給与から控除される社会保険料について解説　松永 7.【まもる】生命保険の知識・・・生命保険のしくみと概要の解説　松永 8.【まもる】損害保険の知識・・・損害保険のしくみと概要の解説　松永 9.【ふやす】金融商品のしくみ　総論・・・お金を増やすとは　リスクとリターンについて解説　植田 10.【ふやす】金融商品のしくみ　各論・・・預金・株・国債などの具体的な資産運用手段について理解する　植田 11.【おさめる】税金の知識・・・所得税のしくみを中心に税金の知識を取得する　植田 12.【つかう】不動産・車の購入のしかた　その１・・・住宅・車購入の際に知っておくべきこと・注意すべき点を解説　植田 13.【つかう】不動産・車の購入のしかた　その２・・・住宅ローン・カーリース等に関する知識の取得　植田 14.【のこす】贈与・相続に関する知識・・・贈与や相続に関する法律上知っておくべき知識や税金の話　植田 15.終了試験・・・FP技能士３級レベルの試験と評価　植田
授業外における学習（準備学習の内容）	金融の言葉の一部は難解な言葉もあります。日頃から新聞・テレビ等で経済に関するニュースに興味をもって接してください（とくに日経平均株価・為替レート・年金・税金の情報など）。
授業方法	講義形式、演習形式で実施します。 レジメにもとづいて授業を行います。
評価基準と評価方法	出席、試験成績の各点数と授業態度（課題提出の有無や自主発表）を総合的に評価します。 割合は、平常点（出席含む）６０％、試験４０％
教科書	なし
参考書	署名：女性の「お金力」養成塾 著者：倉島進・植田麻衣子 出版社：セルバ出版 ISBN978-4-86367-025-9

－　　－　　－

科目区分	キャリア系列／キャリア・ビジネス教育系列						
科目名	ホスピタリティ・マネジメント						
担当教員	福田　洋子・鷲北　千草						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	木曜4	配当学年	1～2	単位数	2.0

授業のテーマ	ホスピタリティの探求と発揮
授業の概要	ホスピタリティを様々な角度から取り上げ、これからの産業におけるホスピタリティの重要性を理解し行動につなげる。 現代は様々な場面でホスピタリティの重要性が高まっている。この授業では、エアライン、ホテル、飲食業のサービスや仕事などを題材に取り上げながら、ホスピタリティが生み出す価値の重要性について広く考察していく。また、授業を通じて受講生がホスピタリティの概念について考え、創造できるようになることを目指す。
到達目標	1. 現代の日本社会において、ホスピタリティの意味と果たす役割を理解することができる。 2. ホスピタリティが生み出す要素を理解できる。 3. ホスピタリティの概念を理解し、実際に発揮できる。
授業計画	第1回　オリエンテーション：授業履修にあたっての説明　概要説明 第2回　ホスピタリティの原義：ホスピタリティの語源　ホスピタリティとサービスの比較 第3回　ホスピタリティと人間：ホスピタリティの起源、他者理解 第4回　ホスピタリティと文化：ホスピタリティの文化的差異　地域のホスピタリティ 第5回　ホスピタリティと産業Ⅰ：日本のおもてなしを考える（グループディスカッション実施） 第6回　ホスピタリティと産業Ⅱ：エアラインにおけるホスピタリティ　～ANAを例に～ 第7回　ホスピタリティとチームワーク：チームワークの重要性　チームの力と個人の力 第8回　ホスピタリティを伝える基本Ⅰ：ホスピタリティとコミュニケーションの関係 第9回　ホスピタリティを伝える基本Ⅱ：異文化コミュニケーションを考える 第10回　言葉で表すホスピタリティ：敬語表現の基礎　社会で活用できる表現 第11回　表現力Ⅰ：非言語コミュニケーションの重要性　表情が与える印象とは 第12回　表現力Ⅱ：ホスピタリティを伝える行動様式　立ち居振る舞い 第13回　事例研究Ⅰ：リッツカールトンに学ぶホスピタリティ 第14回　事例研究Ⅱ：東京ディズニーリゾートのホスピタリティ 第15回　まとめ：全体のまとめと振り返り　レポート作成
授業外における学習（準備学習の内容）	授業後学習：配付資料を読み、復習すること。 最終的には理解した内容を実生活に取り入れることに繋げるため、毎回の授業を理解し実際に行動化することが大切である。
授業方法	パワーポイントを使用し講義を行う。 また、授業後半部分はグループワークや実習を行うため各人の積極的な授業参加を期待する。
評価基準と評価方法	・小レポート40%、第15回まとめレポート20%、授業参加態度・出席40%とし、総合的に判断する。 ・欠席は5回までとし（遅刻含む）、それ以上は失格となるため各自で留意しておくこと。
教科書	テキストは使用しない。毎回レジュメを配付するので各自でファイリングし授業に持参すること。
参考書	

－　　－　　－

科目区分	キャリア系列／キャリア・ビジネス教育系列						
科目名	ホスピタリティ・マネジメント						
担当教員	福田　洋子・鷲北　千草						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	金曜4	配当学年	1～2	単位数	2.0

授業のテーマ	ホスピタリティの探求と発揮
授業の概要	ホスピタリティを様々な角度から取り上げ、これからの産業におけるホスピタリティの重要性を理解し行動につなげる。 現代は様々な場面でホスピタリティの重要性が高まっている。この授業では、エアライン、ホテル、飲食業のサービスや仕事などを題材に取り上げながら、ホスピタリティが生み出す価値の重要性について広く考察していく。また、授業を通じて受講生がホスピタリティの概念について考え、創造できるようになることを目指す。
到達目標	1. 現代の日本社会において、ホスピタリティの意味と果たす役割を理解することができる。 2. ホスピタリティが生み出す要素を理解できる。 3. ホスピタリティの概念を理解し、実際に発揮できる。
授業計画	第1回　オリエンテーション：授業履修にあたっての説明　概要説明 第2回　ホスピタリティの原義：ホスピタリティの語源　ホスピタリティとサービスの比較 第3回　ホスピタリティと人間：ホスピタリティの起源、他者理解 第4回　ホスピタリティと文化：ホスピタリティの文化的差異　地域のホスピタリティ 第5回　ホスピタリティと産業Ⅰ：日本のおもてなしを考える（グループディスカッション実施） 第6回　ホスピタリティと産業Ⅱ：エアラインにおけるホスピタリティ　～ANAを例に～ 第7回　ホスピタリティとチームワーク：チームワークの重要性　チームの力と個人の力 第8回　ホスピタリティを伝える基本Ⅰ：ホスピタリティとコミュニケーションの関係 第9回　ホスピタリティを伝える基本Ⅱ：異文化コミュニケーションを考える 第10回　言葉で表すホスピタリティ：敬語表現の基礎　社会で活用できる表現 第11回　表現力Ⅰ：非言語コミュニケーションの重要性　表情が与える印象とは 第12回　表現力Ⅱ：ホスピタリティを伝える行動様式　立ち居振る舞い 第13回　事例研究Ⅰ：リッツカールトンに学ぶホスピタリティ 第14回　事例研究Ⅱ：東京ディズニーリゾートのホスピタリティ 第15回　まとめ：全体のまとめと振り返り　レポート作成
授業外における学習（準備学習の内容）	授業後学習：配付資料を読み、復習すること。 最終的には理解した内容を実生活に取り入れることに繋げるため、毎回の授業を理解し実際に行動化することが大切である。
授業方法	パワーポイントを使用し講義を行う。 また、授業後半部分はグループワークや実習を行うため各人の積極的な授業参加を期待する。
評価基準と評価方法	・小レポート40%、第15回まとめレポート20%、授業参加態度・出席40%とし、総合的に判断する。 ・欠席は5回までとし（遅刻含む）、それ以上は失格となるため各自で留意しておくこと。
教科書	テキストは使用しない。毎回レジュメを配付するので各自でファイリングし授業に持参すること。
参考書	

－　　－　　－

科目区分	キャリア系列／キャリア・ビジネス教育系列						
科目名	ホスピタリティ・マネジメント						
担当教員	福田　洋子・鷲北　千草						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	木曜4	配当学年	1～2	単位数	2.0

授業のテーマ	ホスピタリティの探求と発揮
授業の概要	ホスピタリティを様々な角度から取り上げ、これからの産業におけるホスピタリティの重要性を理解し行動につなげる。 現代は様々な場面でホスピタリティの重要性が高まっている。この授業では、エアライン、ホテル、飲食業のサービスや仕事などを題材に取り上げながら、ホスピタリティが生み出す価値の重要性について広く考察していく。また、授業を通じて受講生がホスピタリティの概念について考え、創造できるようになることを目指す。
到達目標	1. 現代の日本社会において、ホスピタリティの意味と果たす役割を理解することができる。 2. ホスピタリティが生み出す要素を理解できる。 3. ホスピタリティの概念を理解し、実際に発揮できる。
授業計画	第1回　オリエンテーション：授業履修にあたっての説明　概要説明 第2回　ホスピタリティの原義：ホスピタリティの語源　ホスピタリティとサービスの比較 第3回　ホスピタリティと人間：ホスピタリティの起源、他者理解 第4回　ホスピタリティと文化：ホスピタリティの文化的差異　地域のホスピタリティ 第5回　ホスピタリティと産業Ⅰ：日本のおもてなしを考える（グループディスカッション実施） 第6回　ホスピタリティと産業Ⅱ：エアラインにおけるホスピタリティ　～ANAを例に～ 第7回　ホスピタリティとチームワーク：チームワークの重要性　チームの力と個人の力 第8回　ホスピタリティを伝える基本Ⅰ：ホスピタリティとコミュニケーションの関係 第9回　ホスピタリティを伝える基本Ⅱ：異文化コミュニケーションを考える 第10回　言葉で表すホスピタリティ：敬語表現の基礎　社会で活用できる表現 第11回　表現力Ⅰ：非言語コミュニケーションの重要性　表情が与える印象とは 第12回　表現力Ⅱ：ホスピタリティを伝える行動様式　立ち居振る舞い 第13回　事例研究Ⅰ：リッツカールトンに学ぶホスピタリティ 第14回　事例研究Ⅱ：東京ディズニーリゾートのホスピタリティ 第15回　まとめ：全体のまとめと振り返り　レポート作成
授業外における学習（準備学習の内容）	授業後学習：配付資料を読み、復習すること。 最終的には理解した内容を実生活に取り入れることに繋げるため、毎回の授業を理解し実際に行動化することが大切である。
授業方法	パワーポイントを使用し講義を行う。 また、授業後半部分はグループワークや実習を行うため各人の積極的な授業参加を期待する。
評価基準と評価方法	・小レポート40%、第15回まとめレポート20%、授業参加態度・出席40%とし、総合的に判断する。 ・欠席は5回までとし（遅刻含む）、それ以上は失格となるため各自で留意しておくこと。
教科書	テキストは使用しない。毎回レジュメを配付するので各自でファイリングし授業に持参すること。
参考書	

－　　－　　－

科目区分	キャリア系列／キャリア・ビジネス教育系列						
科目名	ホスピタリティ・マネジメント						
担当教員	福田　洋子・鷲北　千草						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	金曜3	配当学年	1～2	単位数	2.0

授業のテーマ	ホスピタリティの探求と発揮
授業の概要	ホスピタリティを様々な角度から取り上げ、これからの産業におけるホスピタリティの重要性を理解し行動につなげる。 現代は様々な場面でホスピタリティの重要性が高まっている。この授業では、エアライン、ホテル、飲食業のサービスや仕事などを題材に取り上げながら、ホスピタリティが生み出す価値の重要性について広く考察していく。また、授業を通じて受講生がホスピタリティの概念について考え、創造できるようになることを目指す。
到達目標	1. 現代の日本社会において、ホスピタリティの意味と果たす役割を理解することができる。 2. ホスピタリティが生み出す要素を理解できる。 3. ホスピタリティの概念を理解し、実際に発揮できる。
授業計画	第1回　オリエンテーション：授業履修にあたっての説明　概要説明 第2回　ホスピタリティの原義：ホスピタリティの語源　ホスピタリティとサービスの比較 第3回　ホスピタリティと人間：ホスピタリティの起源、他者理解 第4回　ホスピタリティと文化：ホスピタリティの文化的差異　地域のホスピタリティ 第5回　ホスピタリティと産業Ⅰ：日本のおもてなしを考える（グループディスカッション実施） 第6回　ホスピタリティと産業Ⅱ：エアラインにおけるホスピタリティ　～ANAを例に～ 第7回　ホスピタリティとチームワーク：チームワークの重要性　チームの力と個人の力 第8回　ホスピタリティを伝える基本Ⅰ：ホスピタリティとコミュニケーションの関係 第9回　ホスピタリティを伝える基本Ⅱ：異文化コミュニケーションを考える 第10回　言葉で表すホスピタリティ：敬語表現の基礎　社会で活用できる表現 第11回　表現力Ⅰ：非言語コミュニケーションの重要性　表情が与える印象とは 第12回　表現力Ⅱ：ホスピタリティを伝える行動様式　立ち居振る舞い 第13回　事例研究Ⅰ：リッツカールトンに学ぶホスピタリティ 第14回　事例研究Ⅱ：東京ディズニーリゾートのホスピタリティ 第15回　まとめ：全体のまとめと振り返り　レポート作成
授業外における学習（準備学習の内容）	授業後学習：配付資料を読み、復習すること。 最終的には理解した内容を実生活に取り入れることに繋げるため、毎回の授業を理解し実際に行動化することが大切である。
授業方法	パワーポイントを使用し講義を行う。 また、授業後半部分はグループワークや実習を行うため各人の積極的な授業参加を期待する。
評価基準と評価方法	・小レポート40%、第15回まとめレポート20%、授業参加態度・出席40%とし、総合的に判断する。 ・欠席は5回までとし（遅刻含む）、それ以上は失格となるため各自で留意しておくこと。
教科書	テキストは使用しない。毎回レジュメを配付するので各自でファイリングし授業に持参すること。
参考書	

－　　－　　－

科目区分	キャリア系列／キャリア・ビジネス教育系列						
科目名	ホスピタリティ・マネジメント						
担当教員	福田　洋子・鷲北　千草						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	金曜4	配当学年	2～3	単位数	2.0

授業のテーマ	ホスピタリティの探求と発揮
授業の概要	ホスピタリティを様々な角度から取り上げ、これからの産業におけるホスピタリティの重要性を理解し行動につなげる。 現代は様々な場面でホスピタリティの重要性が高まっている。この授業では、エアライン、ホテル、飲食業のサービスや仕事などを題材に取り上げながら、ホスピタリティが生み出す価値の重要性について広く考察していく。また、授業を通じて受講生がホスピタリティの概念について考え、創造できるようになることを目指す。
到達目標	1. 現代の日本社会において、ホスピタリティの意味と果たす役割を理解することができる。 2. ホスピタリティが生み出す要素を理解できる。 3. ホスピタリティの概念を理解し、実際に発揮できる。
授業計画	第1回　オリエンテーション：授業履修にあたっての説明　概要説明 第2回　ホスピタリティの原義：ホスピタリティの語源　ホスピタリティとサービスの比較 第3回　ホスピタリティと人間：ホスピタリティの起源、他者理解 第4回　ホスピタリティと文化：ホスピタリティの文化的差異　地域のホスピタリティ 第5回　ホスピタリティと産業Ⅰ：日本のおもてなしを考える（グループディスカッション実施） 第6回　ホスピタリティと産業Ⅱ：エアラインにおけるホスピタリティ　～ANAを例に～ 第7回　ホスピタリティとチームワーク：チームワークの重要性　チームの力と個人の力 第8回　ホスピタリティを伝える基本Ⅰ：ホスピタリティとコミュニケーションの関係 第9回　ホスピタリティを伝える基本Ⅱ：異文化コミュニケーションを考える 第10回　言葉で表すホスピタリティ：敬語表現の基礎　社会で活用できる表現 第11回　表現力Ⅰ：非言語コミュニケーションの重要性　表情が与える印象とは 第12回　表現力Ⅱ：ホスピタリティを伝える行動様式　立ち居振る舞い 第13回　事例研究Ⅰ：リッツカールトンに学ぶホスピタリティ 第14回　事例研究Ⅱ：東京ディズニーリゾートのホスピタリティ 第15回　まとめ：全体のまとめと振り返り　レポート作成
授業外における学習（準備学習の内容）	授業後学習：配付資料を読み、復習すること。 最終的には理解した内容を実生活に取り入れることに繋げるため、毎回の授業を理解し実際に行動化することが大切である。
授業方法	パワーポイントを使用し講義を行う。 また、授業後半部分はグループワークや実習を行うため各人の積極的な授業参加を期待する。
評価基準と評価方法	・小レポート40%、第15回まとめレポート20%、授業参加態度・出席40%とし、総合的に判断する。 ・欠席は5回までとし（遅刻含む）、それ以上は失格となるため各自で留意しておくこと。
教科書	テキストは使用しない。毎回レジュメを配付するので各自でファイリングし授業に持参すること。
参考書	

－　　－　　－

科目区分	キャリア系列／キャリア・ビジネス教育系列						
科目名	簿記・会計A						
担当教員	倉島　進						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	1～2	単位数	2.0

授業のテーマ	企業の経理の仕組みを通じて、必要な簿記の知識を習得する。
授業の概要	社会には、さまざまな会社があります。会社は儲けるために日々努力しています。これらの会社の活動には、必ずお金が絡んでおり、経営者は、そのお金の動きについて、記録し財務諸表という報告書をつくって報告をしなければなりません。これらの統一された報告の方法が簿記です。 言い換えれば、この授業は、会社がどのような活動をし、どのように儲けていくのかについての仕組みを勉強して行きます。 簿記・会計Aの知識やその基本を生かしつつ、さまざまな企業活動についての記録のパターンを勉強するとともに、実際に報告書を作成します。 この授業では、簿記に慣れしたしんでもらうために、できるだけやさしい言葉で解説します。 特に、就職後、経理として必要な知識を習得することを目的として、いわゆる日常の経理処理が十分にできる力を本講座を通じて習得してもらうことを想定しています。 そのため、いわゆる簿記検定試験に出る難しい論点を排除し、簿記の全体像をつかむことを主眼とします。 日商簿記３級に挑戦する方は、本講座受講後後期に開講する簿記会計Ｂを続けて受講することをお勧めします。
到達目標	企業実務ににおいて経理担当者レベルの簿記の知識の習得
授業計画	1　オリエンテーション（簿記とは何か？） 2　簿記の世界へようこそ！ 3　簿記を使って記録してみよう 4　報告書を作ってみよう 5　現金とはなにか？ 6　商品売買のしくみ（商品を仕入れること） 7　商品売買のしくみ（商品を売ること） 8　有価証券の売買とその処理 9　固定資産の売買とその処理 10　その場面ではこの仕訳（その他の債権債務） 11　簿記一巡の仕訳の流れ（まとめとして） 12　決算の流れ 13　決算をやってみよう 14　帳簿の締切と報告書の作成 15　総まとめと試験
授業外における学習（準備学習の内容）	予習をするより、毎回の授業の内容を理解するようにテキストを読んでください。 参考資料も配布しますので、ぜひやってみてください。
授業方法	テキストとして、知る・わかる・うかる　はじめての簿記入門』を利用して、授業を進めます。場合によっては、補充プリント等を配布することで、授業の理解度を深めてもらいます。 簿記は、積み上げですので、できるかぎり出席をしてください。授業中の演習を含めて、授業中での理解を深めてもらいます。 参加型の授業を目指していますので、授業中の発言に対して、加点します。どんどん発言してください。（正解不正解は関係ありません） 簿記会計Ｂを続けて受講することで、日本商工会議所主催の簿記検定試験３級の合格レベルへ到達する予定です。
評価基準と評価方法	評価は、授業の出席、授業中の発表（小テストを含む）、定期試験（前期、後期）を加味して評価する。 平常点５０％、残りで５０％
教科書	知る・わかる・うかる　はじめての簿記入門』平成25年12月改定版（セルバ出版）
参考書	初回時に発表する。

－　　－　　－

科目区分	キャリア系列／キャリア・ビジネス教育系列						
科目名	簿記・会計A						
担当教員	倉島　進						
学期	前期／1st　semester	曜日・時限	月曜5	配当学年	1～2	単位数	2.0

授業のテーマ	企業の経理の仕組みを通じて、必要な簿記の知識を習得する。
授業の概要	社会には、さまざまな会社があります。会社は儲けるために日々努力しています。これらの会社の活動には、必ずお金が絡んでおり、経営者は、そのお金の動きについて、記録し財務諸表という報告書をつくって報告をしなければなりません。これらの統一された報告の方法が簿記です。 言い換えれば、この授業は、会社がどのような活動をし、どのように儲けていくのかについての仕組みを勉強して行きます。 簿記・会計Aの知識やその基本を生かしつつ、さまざまな企業活動についての記録のパターンを勉強するとともに、実際に報告書を作成します。 この授業では、簿記に慣れしたしんでもらうために、できるだけやさしい言葉で解説します。 特に、就職後、経理として必要な知識を習得することを目的として、いわゆる日常の経理処理が十分にできる力を本講座を通じて習得してもらうことを想定しています。 そのため、いわゆる簿記検定試験に出る難しい論点を排除し、簿記の全体像をつかむことを主眼とします。 日商簿記３級に挑戦する方は、本講座受講後後期に開講する簿記会計Ｂを続けて受講することをお勧めします。
到達目標	企業実務ににおいて経理担当者レベルの簿記の知識の習得
授業計画	1　オリエンテーション（簿記とは何か？） 2　簿記の世界へようこそ！ 3　簿記を使って記録してみよう 4　報告書を作ってみよう 5　現金とはなにか？ 6　商品売買のしくみ（商品を仕入れること） 7　商品売買のしくみ（商品を売ること） 8　有価証券の売買とその処理 9　固定資産の売買とその処理 10　その場面ではこの仕訳（その他の債権債務） 11　簿記一巡の仕訳の流れ（まとめとして） 12　決算の流れ 13　決算をやってみよう 14　帳簿の締切と報告書の作成 15　総まとめと試験
授業外における学習（準備学習の内容）	予習をするより、毎回の授業の内容を理解するようにテキストを読んでください。 参考資料も配布しますので、ぜひやってみてください。
授業方法	テキストとして、知る・わかる・うかる　はじめての簿記入門』を利用して、授業を進めます。場合によっては、補充プリント等を配布することで、授業の理解度を深めてもらいます。 簿記は、積み上げですので、できるかぎり出席をしてください。授業中の演習を含めて、授業中での理解を深めてもらいます。 参加型の授業を目指していますので、授業中の発言に対して、加点します。どんどん発言してください。（正解不正解は関係ありません） 簿記会計Ｂを続けて受講することで、日本商工会議所主催の簿記検定試験３級の合格レベルへ到達する予定です。
評価基準と評価方法	評価は、授業の出席、授業中の発表（小テストを含む）、定期試験（前期、後期）を加味して評価する。 平常点５０％、残りで５０％
教科書	知る・わかる・うかる　はじめての簿記入門』平成25年12月改定版（セルバ出版）
参考書	初回時に発表する。

－　　－　　－

科目区分	キャリア系列／キャリア・ビジネス教育系列						
科目名	簿記・会計B						
担当教員	植田　麻衣子						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	1～2	単位数	2.0

授業のテーマ	簿記会計Ａの内容を踏まえて、日商簿記検定試験に挑戦できるレベルの知識を達成する
授業の概要	社会には、さまざまな会社があります。会社は儲けるために日々努力しています。これらの会社の活動には、必ずお金が絡んでおり、経営者は、そのお金の動きについて、記録し財務諸表という報告書をつくって報告をしなければなりません。これらの方法は統一された方法があり、その方法が簿記です。 言い換えれば、この授業は、会社がどのような活動をし、どのように儲けていくのかについての仕組みを勉強して行きます。 この授業では、簿記に慣れ親しんでもらうために、できるだけやさしい言葉で解説します。 簿記・会計Aの知識やその基本を生かしつつ、日商簿記検定試験３級の合格レベルまで、本講座を通じて目指します。 簿記は続けて学習することが必要であり、自己トレーニングも必要になってきます。授業中の配布の問題や参考図書の問題集をこなすことにより、「日商簿記検定の3級」程度の力をつけることを想定しています。
到達目標	日商簿記検定試験3級合格レベル
授業計画	1　オリエンテーション 2　簿記一巡の流れ（簿記Ａの総復習） 3　小口現金の処理 4　手形って何だろう 5　在庫管理と商品有り高帳 6　決算の流れと決算作業（経過勘定項目） 7　決算作業（売上原価、資産の評価） 8　精算表の作成（仕組みの理解） 9　演習①（精算表の作成） 10　記録すること（帳簿組織）と伝票会計 11　仕訳総復習（物を売ると言うこと） 12　仕訳総復習（物を買うということ） 13　演習②（試験対策） 14　後期まとめと試験 15　試験問題解説と質疑応答
授業外における学習（準備学習の内容）	簿記検定は慣れが必要です。そのためには、日ごろから、課題等を含め、自身での練習が必要です。
授業方法	テキストとして、『知る・わかる・うかる　はじめての簿記入門』を利用して、授業を進めます。場合によっては、補充プリント等を配布することで、授業の理解度を深めてもらいます。 授業⇒演習と繰り返して、理解力アップを図ります。 簿記は、積み上げですので、できるかぎり出席をしてください。授業中の演習を含めて、授業中での理解を深めてもらいます。 本講座は、簿記に関する基礎知識を習得していることを前提として、授業を行いますので、簿記会計Ａの受講者もしくは、高校等で簿記会計に関する授業の経験者のレベルに設定して授業と、演習を繰り返して行います。 授業を通じて、日本商工会議所主催の簿記検定試験３級の合格レベルへ到達する予定です。 簿記は自己学習も必要です。このために、テキストと並行した問題集で問題演習を含めていただきます。
評価基準と評価方法	評価は、授業の出席、授業中の発表（小テストを含む）、定期試験を加味して評価する。 平常点５０％、残りで５０％
教科書	『知る・わかる・うかる　はじめての簿記入門』平成25年12月改訂版（セルバ出版）
参考書	なし

－　　－　　－

科目区分	キャリア系列／キャリア・ビジネス教育系列						
科目名	簿記・会計B						
担当教員	倉島　進						
学期	後期／2nd　semester	曜日・時限	月曜5	配当学年	1～2	単位数	2.0

授業のテーマ	簿記会計Ａの内容を踏まえて、日商簿記検定試験に挑戦できるレベルの知識を達成する
授業の概要	社会には、さまざまな会社があります。会社は儲けるために日々努力しています。これらの会社の活動には、必ずお金が絡んでおり、経営者は、そのお金の動きについて、記録し財務諸表という報告書をつくって報告をしなければなりません。これらの方法は統一された方法があり、その方法が簿記です。 言い換えれば、この授業は、会社がどのような活動をし、どのように儲けていくのかについての仕組みを勉強して行きます。 この授業では、簿記に慣れしたしんでもらうために、できるだけやさしい言葉で解説します。 簿記・会計Aの知識やその基本を生かしつつ、日商簿記検定試験３級の合格レベルまで、本講座を通じて目指します。 簿記は続けて学習することが必要であり、自己トレーニングも必要になってきます。授業中の配布の問題や参考図書の問題集をこなすことにより、「日商簿記検定の3級」程度の力をつけることを想定してます。
到達目標	日商簿記検定試験3級合格レベル
授業計画	1　オリエンテーション 2　簿記一巡の流れ（簿記Ａの総復習） 3　手形 4　小口現金、資本金 5　商品有高帳の記入 6　決算の流れ、決算整理作業（経過勘定科目） 7　決算の流れ、決算整理作業の復習 8　決算の流れ、決算整理作業の復習 9　決算の流れ、決算整理作業の復習～帳簿の締め切り 10　物を売るということ 11　物を買うということ 12　帳簿組織～記録すること、伝票会計 13　第3問対策問題 14　後期まとめと試験 15　後期総まとめ
授業外における学習（準備学習の内容）	簿記検定はなれが必要です。そのためには、日ごろから、課題等を含め、自身での練習が必要です。
授業方法	テキストとして、知る・わかる・うかる　はじめての簿記入門』を利用して、授業を進めます。場合によっては、補充プリント等を配布することで、授業の理解度を深めてもらいます。 授業⇒演習と繰り返して、理解力をアップを図ります。 簿記は、積み上げですので、できるかぎり出席をしてください。授業中の演習を含めて、授業中での理解を深めてもらいます。 本講座は、簿記に関する基礎知識を習得していることを前提として、授業を行いますので、簿記会計Ａの受講者もしくは、高校等で簿記会計に関する授業の経験者のレベルに設定して授業と、演習を繰り返して行います。 授業を通じて、日本商工会議所主催の簿記検定試験３級の合格レベルへ到達する予定です。 簿記は自己学習も必要です。このために、テキストと並行した問題集で問題演習を含めていただきます。
評価基準と評価方法	評価は、授業の出席、授業中の発表（小テストを含む）、定期試験を加味して評価する。 平常点５０％、残りで５０％
教科書	知る・わかる・うかる　はじめての簿記入門』平成25年12月改定版（セルバ出版）
参考書	初回時に発表する。